

第2期浦幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略

浦幌町役場まちづくり政策課

はじめに

浦幌町は、北海道十勝総合振興局管内の最東端にあり、東は釧路総合振興局管内釧路市音別町と白糠町、西は豊頃町と池田町、北は本別町にそれぞれ隣接し、南は太平洋沿岸に面しています。

総面積は729.85km²と広大な町土を有し、そのうち74.2%は森林地帯、農用地は14.3%となっています。比較的平坦な地形で、町の中央部を北から南に貫流する浦幌川には耕地が張り付き、牧草地が地平線まで広がる雄大な農村風景、全長22kmの海岸線を有する太平洋沿岸の広大な風景など、多様で豊かな自然環境に恵まれています。また、気候は年間を通して比較的温和で、夏季にはレジャーや観光に適した気温となり、冬季の降雪量は日本海沿岸地方に比べると比較的少なく、住みやすい環境となっています。

豊かな自然環境と比較的温和な気候から、畑作・畜産を主体とする農業、林業、水産業の第1次産業を基幹産業としています。



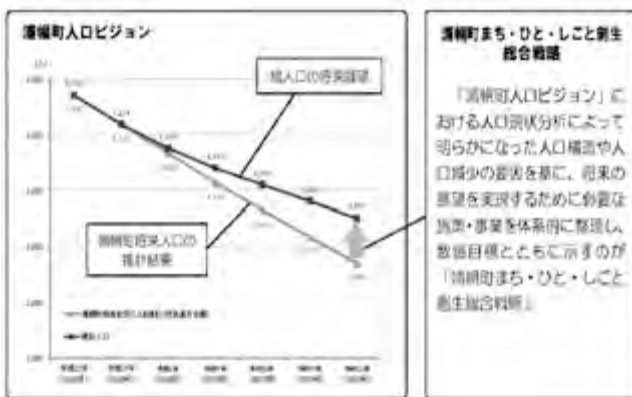
人口の推移

浦幌町の人口は、1960（昭和35）年の14,150人をピークに減少しており、1980（昭和55）年に1万人を割る9,693人となった後も減少を続け、2015（平成27）年には5,000人を割り4,919人となっています。1995（平成7）年に若年者比率が13.6%、高齢者比率が20.0%となり、高齢者比率が若年者比率を上回って以降、若年者比率の減少速度は低下するものの、高齢者比率の増加速度は維持しており、2015（平成27）年には全人口の約4割が高齢者という状況になっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、2040（令和22）年には2015（平成27）年比で総人口が57.1%となる見込みです。人口の減少は出生数の減少（自然減）や本町の基幹産業である農林水産業の衰退に伴い、雇用機会が減少したこと、高校がなくなったことによる若者、生産年齢人口の町外流出（社会減）が原因と考えられます。

浦幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

(1) 浦幌町人口ビジョンとの関係

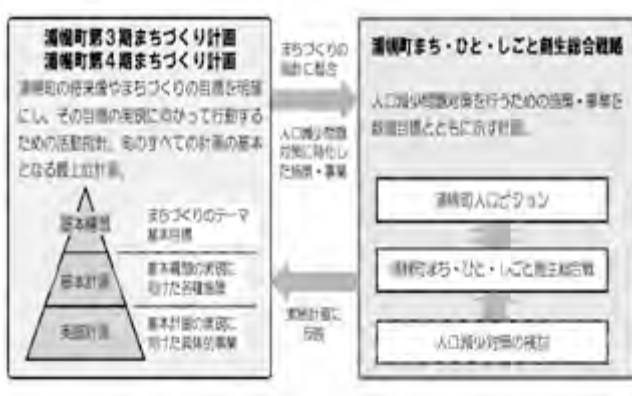
浦幌町の人口ビジョンで示した「総人口の推計結果（浦幌町独自仮定による推計）」を基に、「総人口の将来展望」を実現するために実施する施策・事業を、数値目標とともに示すのが浦幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略です。



(2) 浦幌町第3期まちづくり計画並びに第4期まちづくり計画との関係

浦幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少問題対策に特化した施策・事業を数値目標とともに示す計画であり、浦幌町第3期まちづくり計画に示されているまちづくりのテーマや基本目標を基に策定しております。また、第4期まちづくり計画においても整合性を図り策定されるものです。

住民の意識や意向、各種団体などの意見や庁内各課における施策・事業を浦幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略に盛り込むとともに、第4期まちづくり計画に反映します。



基本目標と具体的な施策

【基本目標1】 浦幌町における安定した雇用を創出する

本町の基幹産業である農林水産業の基盤強化と安定化を図るだけでなく、六次産業化への展開強化を念頭に雇用の促進を図ります。また、商工会を中心とした町内の既存事業への支援を充実させるとともに、町民のアイデアによる新規起業や特産品開発への支援を行い、新たな雇用の創出に向けた取組を強化します。

- (1) 農業の振興と担い手対策の推進
- (2) 林業の振興と林業労働力の確保・育成
- (3) 資源管理型漁業の推進による水産業の振興
- (4) 既存企業への支援強化と新事業の創出

【基本目標2】 浦幌町への新しいひとの流れをつくる

本町が持つ観光資源の整備・充実を図るとともにPR活動を推進し、観光とうらほろスタイルを通じた“うらほろ”の認知度向上と関係・交流人口の増加に向けた取組を行います。

- (1) 観光・交流資源の充実・活用
- (2) イベントの振興とPR活動の推進
- (3) 移住・定住の促進
- (4) 広域連携の推進

【基本目標3】 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

「結婚して子どもを産み育てたい」という希望をかなえるため、結婚・妊娠・出産・子育ての各段階に応じた切れ目のない支援を行い、うらほろスタイル推進事業を通じた雇用の場の創出と安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。

- (1) 結婚のきっかけづくりと妊娠・出産への支援
- (2) 総合的な子育て支援の充実
- (3) 子どもの教育環境の充実
- (4) 青少年の健全育成に向けた取組

【基本目標4】 時代に合ったまちをつくり、安心な暮らしを守る

職業や年齢に関わらず、だれもが安全で安心して住み続けられるまちづくりを進めるとともに、地域力向上に向けた地域コミュニティ活動の推進や、人や企業・団体、町の協働によるまちづくりを推進します。

- (1) 町民が安心して生活できる基盤づくり
- (2) 高齢者福祉の充実
- (3) 地域コミュニティ活動の活性化

取組事例 1

【うらほろスタイル推進事業】

浦幌を地域として持続させ、次の世代に引き渡していくための取組である「うらほろスタイル」は、浦幌町内に住む小学生・中学生・高校生を対象とし、「子どもたちが夢と希望を抱けるまち」を目指して5つのプロジェクトを柱に事業を展開しています。

プロジェクト1	地域への愛着を育む事業
プロジェクト2	子どもの思い実現事業
プロジェクト3	農村つながり体験事業
プロジェクト4	若者のしごと創造事業
プロジェクト5	高校生つながり発展事業

この事業が始まった背景には、平成19年度に地元の高校の募集停止を通告されたことがあり、平成20年度に官民協働の組織である「うらほろスタイル推進地域協議会」が設立されます。後に同協議会はNPO法人化され、現在はNPO法人の解散に伴い一般社団法人に業務が引き継がれています。

地域への愛着を育む事業では、小・中学校において総合的な学習の時間を活用し展開されており、地域の魅力発見などの体験活動を通じて、子どもたちが主体的に地域への愛着を育む取組が行われています。

子どもの思い実現事業では、中学3年生で行われる地域活性化案に託された子どもたちの夢、希望、思い、願いを、ただ提案として書面を受け取るだけでなく、

大人たちが実現していく取組として、「子どもの思いワークショップ」を定期的で開催し、実現可能なものから手掛けていく形で適宜進められています。

農村つながり体験事業では、町内の小学5年生が農山漁家で民泊する体験を通じ、浦幌町の良さを再発見するとともに、食糧生産を支える一次産業の大切さとその価値を再認識する機会として行っております。

若者のしごと創造事業では、就学や就職のため一旦浦幌を離れた若者がいずれは戻れるように雇用の場を確保するため、また、U・I・Jターンした若者や起業・創業を考える若者が集える場、活躍できる場づくりを目指し、都会の企業人と浦幌町民の連携による「ワークキャンプ」などを展開し、実際に町内での起業・創業につながったことから、現在は、「十勝うらほろ創生キャンプ事業」として新たな事業を進めています。

高校生つながり発展事業では、小・中学校をうらほろスタイルで育ってきた高校生に対して社会教育の点からサポートするもので、高校生が主体的に目標を見つけ、町の大人や様々な人と関わりを持つことで、今後社会で生き抜く力を育むことを目指し、自主的な組織を立ち上げて日々活動を進めております。

うらほろスタイルの目指す姿は、その理念や取組を町民とともに深化させ、町民参加を促進するとともに、うらほろスタイルを通じた関係・交流人口や移住・定住の増加、新たな起業を創出することにあります。

これからの時代に沿った、自分たちが暮らしやすいまちの発展につなげるため、今後も町民との協働により新しいうらほろスタイルを進めていきます。



ワークキャンプに参加した町民と企業人

取組事例 2

【副業・ボランティアを活用した十勝うらほろ地域創生事業】

先述したうらほろスタイル推進事業における若者のしごと創造事業をさらに発展させる形で、令和2年度から浦幌町長と町内各産業団体の代表者で組織する「十勝うらほろ創生キャンプ地域協議会」を立ち上げ、国の地方創生推進交付金と企業版ふるさと納税を財源とし、企業との協働による副業・ボランティアを活用した地域創生事業を展開しております。

本事業に関する業務は、地域協議会から業務委託を受ける「一般社団法人十勝うらほろ楽舎^{がくしや}」が主に担い、ワークキャンプの発展形として地域課題の解決に向けた取組を行う「十勝うらほろ創生キャンプ事業」を実施し、解決の糸口を見出すことにつなげております。

また、令和4年度からは企業と連携協働によるうらほろの魅力深化させ、課題解決するプロジェクトである「浦幌町未来づくり事業」も併せて実施し、出向企業事業やスポーツを軸としたまちづくり事業が積極的に進められております。

特にスポーツ分野では、「うらほろマラソン2022」を開催し、プロアスリートの大迫傑氏監修による海辺の景観を生かしたコースと、キッズチャレンジと称した子どもたちの日々の頑張りを形にする取組を行い、コロナ禍にあって参加対象の一部制限はあったものの、多くの参加により盛況に終えることができました。



大迫氏と一緒に走る子どもたち

かつて開催されていた「太平洋スピードマラソン」が平成15年度に終了して以降、こうした形でマラソン大会が復活したことによって、町の活気を取り戻すことにもつながり、今後のイベント行事の展開にも期待が高まりました。

また、出向企業事業としては、十勝うらほろ楽舎と旅行業の企業との協働により進める「SDGs教育旅行プログラム」と称した探究学習事業が展開されています。



町内の林業会社で説明を聞く中学生

この取組は、浦幌町が実践する未来志向型のまちづくりを地域外にいる中高生の学びとして提供し、「未来を自分ごととし、自分の未来に夢と希望を抱くことができる人材」の育成を目指して行われています。

近年においては、SDGsや探求学習のキーワードを掲げる学校要望が増加しており、今年度参加した全ての学校が浦幌での学びにこれらの要素を求めていましたが、概ね^{おおむね}良好の評価を得ることができました。

なお、令和5年度からは「浦幌町未来づくり事業」に一本化し、①未来づくり運営事業、②うらほろ大学の設立と運営、③商品開発、④滞在交流事業の4項目を柱に事業展開していくことになります。

これまでの3年間は、地域内外の方々の協力のもと事業の芽を探るべく新たな取組に挑戦しながら進めてきましたが、今後はこれまでの取組内容を精査しつつ、持続可能な社会づくりに向けて地域産業との結びつきを強めながら、より良い形で事業を推進していけるように努めていきたいと思っております。